

平成27年度 兵庫県立兵庫高等学校 学校評価票 集計結果

年度目標		「質素剛健・自重自治」の具現化 ・文武両道を目指す ・キャリア教育の充実 ・マナーの向上											
「27年評価」欄・・・評価の基準 5:よくできた 4:できた 2:あまりできなかった 1:できなかった 0:判断材料に乏しく回答できない													
領域	評価の観点	評価項目	番号	具体的方策(実践目標)	27年評価						26年評価	25年評価	成果と課題
					5 (%)	4 (%)	2 (%)	1 (%)	0 (%)	平均			
学校運営	開かれた学校づくり	保護者・卒業生・地域への情報発信	1	ホームページを更新し、常に新しい情報の発信を心がける	18	45	29	8	0	3.4	3.1	3.3	1.更新が常にはなされていないといけなく、停滞しているといえる。 部活動のページの更新も大切ではないか。 HPと紙媒体による広報との棲み分けの難しさを感じています。 ブログの更新はできているが、HP全体としては他校と比べると見劣りする。 情報の担当を置くべき。部署により差が大きい。
			2	学年通信を通じて、学校行事の取り組みと成果、進路情報等を保護者に伝える	73	23	2	2	0	4.6	4.3	4.3	2. 学年通信による情報発信が活発に行われている。
		学校紹介の推進	3	中学校訪問を実施し情報交換を行うとともに、広報活動をする	46	46	6	2	0	4.3	4.4	4.0	3. 東播地区からの新学科受験希望がなかったのが課題
			4	学校説明会・オープンハイスクールにおいて学校の概要説明、在校生との交流、授業見学、部活動見学を通じて、本校の特色を理解してもらう	62	37	2	0	0	4.6	4.5	4.2	4. オープンハイスクールのあり方を再度検討すべき。
	教職員の資質向上	情報機器の活用と能力の向上	5	ファイルサーバーによって文書を共有化し、管理を徹底する	23	60	13	4	0	3.9	3.6	3.5	5. パスワード等のセキュリティを高める必要がある。 共有ホルダーの整理ができていない。 情報管理者が多くの業務を兼任しすぎ。
			6	職員研修会(人権、教育相談、情報など)や公開授業を実施する	14	64	22	0	0	3.7	3.0	3.1	6. 職員研修を計画的に実施すべきである。
	危機管理体制の整備	防災教育研修会の実施	7	「地震防災・危機管理マニュアル」にそって危機管理体制を整備し、職員の共通認識を深める	10	35	45	10	0	2.9	2.9	2.7	7. マニュアルを活用できていない。 震災に対する意識がまだまだ低いように思う。もっと意識させる必要がある。
			8	防災避難訓練を実施し、緊急時対応マニュアルの徹底を図る	12	50	31	8	0	3.3	3.6	3.4	8. 防災訓練は行われているが、形式的になりつつある。
	適正な予算執行	経理事務の厳正化	9	予算執行の適正化を図るため、複数人によるチェック体制を確立する	10	38	12	40	0	2.7	2.2	3.5	9. 無駄遣いのないようにしたい。
			10	光熱水費等の経費節減に努める	23	56	13	8	0	3.7	3.9	4.1	10. 今年は寒い日も少なかったが、生徒は冬のエアコンがあった方がよい。 冷暖房は生徒・教職員にもう少し我慢が必要だと思う。
教育課程	学習指導	主体的・積極的な学習態度の育成	11	授業における到達目標を明確にし、生徒の主体性を高めるような学習指導を行う	17	65	13	4	0	3.8	3.6	3.8	11. 3年間を見通した授業を展開できるように教科で研究すべきである。
			12	必要に応じて適切な課題を与え、家庭学習の充実を図る	21	58	15	6	0	3.7	3.9	4.0	12. 家庭学習の定着に向けた工夫をすべきである。
			13	土曜自習教室及び長期休業中の補講授業を充実させる	18	58	22	2	0	3.7	3.8	3.6	13. 土曜教室の参加人数が少な実施方法等について再検討が必要である。
		効果的な学習	14	生徒の実態に応じた効果的な授業展開を図る	19	69	10	2	0	3.9	3.7	4.0	14. 教員どうしの授業方法等に関する研修の機会が必要である。 授業でのグループ学習をうまく活用しきれていない。
			15	調査結果を分析・評価し、その結果を教師間で共有して授業改善に役立てる	14	43	33	10	0	3.2	3.0	3.2	15. 教師間で十分に分析出来ていない。教科により取り組みに差がある。
			16	調査結果を面談等の資料として生徒と共有し、学習指導改善の材料とする	17	54	15	13	0	3.5	3.5	3.6	16. 個人面談の充実について、各学年で議論を進めたい。
	生徒指導四綱領「質素・剛健・自重・自治」に基づく指導	モラルとマナーの向上	17	HR、集会(全校・学年)を通して、社会の一員としてのマナーを身につけさせる	18	47	31	4	0	3.4	3.4	3.5	17. 生徒集会等で、時間を守るようにさせる。 標準服の際に下に着ているフードが出ているなどの服装を正させる。
			18	通学マナーと事故防止対策を徹底することを学校全体として行う	8	69	23	0	0	3.6	3.7	3.7	18. 歩きスマホや音楽を聴きながらの通学があり、意識を持たせる必要がある。 学校全体として取り組んでいくことが必要である。
		19	様々な学校行事を通して生徒のリーダー性を育てる	23	62	15	0	0	3.9	4.2	4.0	19. リーダー性は育てたらいののか、育つものなのか悩んでいる。 生徒会行事では教師ができるだけ指示しないことが大切である。 一部の生徒の活動にならないように取り組ませたい。	
	進路指導	進路の探求	20	キャリアサポーターから話を聞く会等を通して、生徒の職業観を育成する	29	61	8	2	0	4.1	4.2	4.2	20. 毎年、充実した会が持たれている。
			21	キャンパストライアル(神戸大学)、出張講義等を通して、生徒の大学・学部・学科に対する理解を深める	38	52	6	4	0	4.2	4.1	4.2	21. 神戸大学の協力を得て、他校にはない取組が出来ている。
			22	多様な進路情報を提供することによって各学年と連携を図り、生徒や保護者との面談を充実させる	21	50	21	8	0	3.6	3.8	3.6	22. 一部の予備校の情報が片寄りが見られる。 四大学以外の情報が少なく、四大学志望者を対象にした進路指導になっていないか。
			23	東京みらいフロンティアツアーや研究室訪問、インターンシップ事業等に積極的に参加させ、生徒の進路意識の向上を図る	23	60	10	8	0	3.8	4.0	4.2	23. 東京みらいツアーは人数が多すぎないか。人数制限を検討すべきだ。
	特色ある教育課程の充実	教育課程の検討	24	生徒の現状に適した教育課程の編成を図る	16	58	20	6	0	3.6	2.6	3.8	24. 兵庫高校らしさが出せていない。抜本的な見直しが必要ではないか。 新学科のカリキュラムは適切か継続点検が必要である。
			25	未来創造コース・総合科学類型の活動を活性化させる	40	52	6	2	0	4.2	3.3	3.8	25. 文系の増加は継続的検証が必要である。 カリキュラムによる学校の意思表示が必要ではないか。
			26	創造科学科推進委員会を機能させ、教職員の共通理解を図る	16	47	25	12	0	3.3	-	-	26. 関連教員のみでの理解となっている。 もう少し全教職員の共通理解が進み、学校全体の取り組みとしたい。
課題教育	保健・安全教育の充実	生徒・教職員の主体的な健康づくり	27	保健指導プリント・保健ジャーナル等を発行し、心身の健康の自己管理能力の向上を図る	19	71	8	2	0	4.0	4.0	3.9	27. 生徒の手による保健ジャーナルの発行はできている。充実させたい。
			28	保健部からの情報発信や、保健指導を通じて、生徒の公衆衛生に対する意識の向上を図る	15	69	8	8	0	3.8	3.7	3.5	28. 生徒の意識の向上策を検討したい。
			29	学校医健康相談・キャンパスカウンセリングの積極的な活用を推進する	13	65	12	10	0	3.6	3.7	3.7	29. 生徒保護者のさらなる理解を得て、効果的なカウンセリングを行いたい。
	生徒の安全対策指導	30	運動部生徒への安全講習会(6月)を実施する	19	60	12	10	0	3.7	3.6	3.9	30. 会は実施できているが、中身の充実を努めたい。	
		31	外部団体の指導により、1年生全員と教職員を対象に、心肺蘇生法とAEDの講習会を実施する	31	61	4	4	0	4.1	4.0	4.0	31. 毎年、必要な講習が実施できている。	
	人権教育の充実	人権意識を育てる	32	命の大切さや人を思いやる心を育むために、人権に関するHRを年1回以上実施する	19	67	12	2	0	3.9	3.8	4.0	32. これは、7.8.の危機管理体制の整備と絡めさせることができる。
			33	講演会や映画鑑賞会を実施し、人権尊重の精神を高める	23	63	13	0	0	4.0	3.7	4.0	33. 人権に関する取組はできたが、さらなる充実を検討すべきである。
国際理解教育の充実	自国や外国の歴史・文化の理解	34	インターナショナルデーを通して、国際的な視野を広げる	27	52	10	12	0	3.7	-	4.1	34. 上海からの生徒と交流会ができた。心のふれあいになるようにさらに研究したい。	
		35	松江二中との友好的な交流を推進する	27	62	6	6	0	4.0	-	4.0	35. 松江二中の行事は、教員への事前の情報共有が大切だと思う。	

評価の観点	評価項目	番号	具体的方策(実践目標)	27年評価						26年評価	25年評価	成果と課題
				5 (%)	4 (%)	2 (%)	1 (%)	0 (%)	平均			
課題教育 清潔で快適な学習環境の維持	学校美化・衛生意識の向上	36	床磨き・ワックスがけ・モップによる特別清掃や、通学路を中心に学校周辺の清掃を年3回実施する	22	76	2	0	0	4.2	3.7	3.9	36.部室、部活場所周辺の掃除ができていない。 ／周辺清掃活動の実施方法等について再検討が必要である。
		37	整美委員を中心にクリーンアップ週間などで校内美化を啓発する	10	60	26	4	0	3.5	2.3	2.7	37.生徒への周知に工夫が必要である。 ／今年の成果を確認すべき。
		38	施設・設備の点検と安全を図る	4	47	39	10	0	3.0	3.1	3.1	38.設備についての不満は生徒から多く聞かれ、改善がなされていないところが多数ある。 ／トイレは少なく、和式が多いというのは改善をしてほしい。 ／廊下が暗い。
		39	ゴミの分別を徹底し、ゴミの資源化を図る	12	57	25	6	0	3.4	3.6	3.2	39.紙のリサイクルを徹底したい。 ／生徒の分別指導が必要で、相変わらず紙ゴミがゴミ箱に入っている。
図書室の積極的活用	図書室の充実	40	クラス読書会、PTAも参加しての全校読書会を充実させる	14	63	10	14	0	3.5	3.4	3.8	40.読書会の目的を共通認識すべきである。
		41	図書を充実させ、環境を整備する	13	58	10	19	0	3.4	2.9	3.8	41.推薦本100冊をまとめ、それらを配架することができた。生徒の読書が課題。
SGH事業の推進	グローバル人材の育成	42	SGH事業の活動を活性化させ、グローバルな視野を持つ生徒を育成する	27	65	6	2	0	4.1	-	-	42.活発に活動する生徒の育成が進められた。
		43	SGH推進委員会を機能させ、教職員の共通理解を図る	14	50	26	10	0	3.3	-	-	43.SGH関連の教員で運営されており、全体の共通認識に至っていない。

学校関係者評価		
評価の観点	主な意見	評価のまとめ
開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学区拡大により、入学してくる生徒に変化はあるか、分析してほしい。 ・ 学区拡大で旧第2学区以外から、半数以上の生徒が入学しているが兵庫高校の伝統や校風を守ってほしい。 ・ 2018年は兵庫開港100周年、「兵庫高校」という名称は有利になってくるのでさらに魅力づくりに努めてほしい。 ・ 中学校訪問やオープンハイスクールなどの職員の広報活動により、高い志願者数に繋がっている。卒業生として、学校の良さを広く広報していく。 ・ 生徒が積極的に地域社会に出て、活動し貢献していることは素晴らしい。 ・ 長田区役所の長田のPR動画の最優秀賞に選ばれていたが、地域に根差した学校ということ意義があることである。 ・ 兵庫高校の良さは数字にはできないが、その魅力が中学生や保護者に伝わっているのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校風など、デジタル化されない兵庫の良さをうまく広報して、それが外部から高く評価されている。 ・ 今年度は、戦後70周年やSGH、未来創造コースの取組など、メディアでよく取り上げられ、学校の広報活動に対する努力が感じられた。 ・ 学区拡大に向けて、昨年度から兵庫高校の伝統的な良さである「校風」「行事」「部活動」等を前面に打ち出し、その結果、兵庫高校の魅力が中学生や保護者、中学校に理解され、志願者増という形であらわれている。 ・ ホームページ、学年通信、中学校訪問、オープンハイスクール、学校説明会など、開かれた学校づくりに地道に取り組んだことも評価できる。特にホームページの影響力は大きいので更なる充実を求める。 ・ 授業などで地域に出向き、交流することが信頼される学校づくりの第1歩である。今後もボランティア活動等で地域に貢献を続けてほしい。
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度から始まった東大や京大の推薦入試に、課題研究に取り組んだ未来創造コースの生徒が合格し、本校の取組が評価されたことは素晴らしい。 ・ 特色を活用した推薦入試の結果は大きな成果である、ぜひ広報に努めてほしい。 ・ 未来創造コースの取組が推薦入試の結果に結びついたのは、先生方の努力に加え、歴代の校長先生の先見の明があったと感心している。 ・ 今年度の進路実績については、大変よい成果を残しており、進路指導がきっちり行われていることがわかる。 ・ 本校の卒業生で元沖縄県知事島田叡氏について、時代背景や功績を含めて生徒に教えてほしい。 ・ 進学実績などがPRされることが多いが、人をどう育てるかということを大切にしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度から始まった東大や京大など難関大の特色入試に合格者がでたことは、本校の取組が外部から高く評価されていることを証明している。実践が成果に結びついたこと、早くから特色入試にも対応できる教育活動をしてきたことは評価できる。 ・ 進路実績だけを求めず、卒業生からの講話や大学と連携した「出張講義」、校外研修である「東京みらいフロンティアツアー」、「神戸大学キャンパストライアル」など、キャリア教育に取り組んでいることは評価できる。
特色ある教育課程の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度から普通クラスの生徒も学校設定科目「グローバルリサーチ」で探究型の授業が選択できるようになったことは、スーパーグローバルハイスクール(SGH)として良いことである。 ・ SGHについては、グローバルといえば欧米というイメージがあるが、近隣のアジア・アフリカにも目を向けてほしい。 ・ 兵庫区・長田区は外国人も多く、多文化共生の地域で多種多様な学びができる。 ・ 多忙な中、学校が大学や専門機関等と連携してハイレベルな教育を行う大変な時代になっている。生徒や先生方の負担にならないことを考えて推進してほしい。 ・ 特色ある教育課程の成果は、生徒の主體的な活動等から十分に確認できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 難関大の特色入試に合格者がでたことは、特色ある取組が外部から高く評価されていることを証明している。今後も学科やSGHの取組に期待する。 ・ 次年度には、これまでの活動に加えて、「イギリス研修」など、新たな取組も用意されており、グローバルリーダーの育成に期待する。 ・ 「学科」を核としつつも、学科だけでなく学校全体で特色化やグローバル化に努めてほしい。 ・ 特色ある教育課程の実施と受検への対応、さらには部活動等もあるなど、多忙な中で生徒も教員も良く努力している。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 修学旅行は、兵庫高校としては北海道よりも、島田氏の学びのことも考えると沖縄の方が良かったのではないか。 ・ 18歳選挙権による生徒の指導についても、時代の流れに応じた指導を続けてほしい。 ・ アンケート結果から生徒は学校生活に充実感を感じている、教職員も多忙であろうが充実感を味わってほしい。 ・ 法律も改正されたので、自転車の交通ルールなどの徹底も指導をお願いしたい。 	